

豊田市障がい者 総合支援センター

2017 年度

市報

2017 年度
活動報告・研究報告「結」
2019 年 3月発行

豊田市障がい者総合支援センター
<http://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/>

社会福祉法人 豊田市福祉事業団

豊田市障がい者総合支援センター「結 2017 年度」を作成いたしました。

2005 年度から、総合支援センターの各施設がその年度に行った取り組みの一つを取り上げ、紹介させていただきました「紀要」を、2012 年度版からは手に取っていただきやすい形に一新いたしました。また、豊田市福祉事業団のホームページにも掲載していく予定です。多くの方にご覧いただき、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

私たちは誰かとつながって生きています。

ひとりで悲しんでいるとき

誰かに話を聞いてもらえたら、少し楽になるかもしれない

うれしいことがあったとき

誰かに「よかったね」といってもらえたら、もっとうれしくなるかもしれない

ひとりではできないことも

誰かと力を合わせれば、できるかもしれない

利用者の方と地域の方々が結ばれることで、お互いがハッピーになればいいな
と考えながら、私たちは毎日の支援を行っています。

私たちの支援を地域の方々に少しでも知ってもらいたい。

その思いを「結（ゆい）」という言葉にのせて発行いたします。

（表紙の題字は、暖 鈴木祐子さん）

豊田市障がい者 総合支援センター

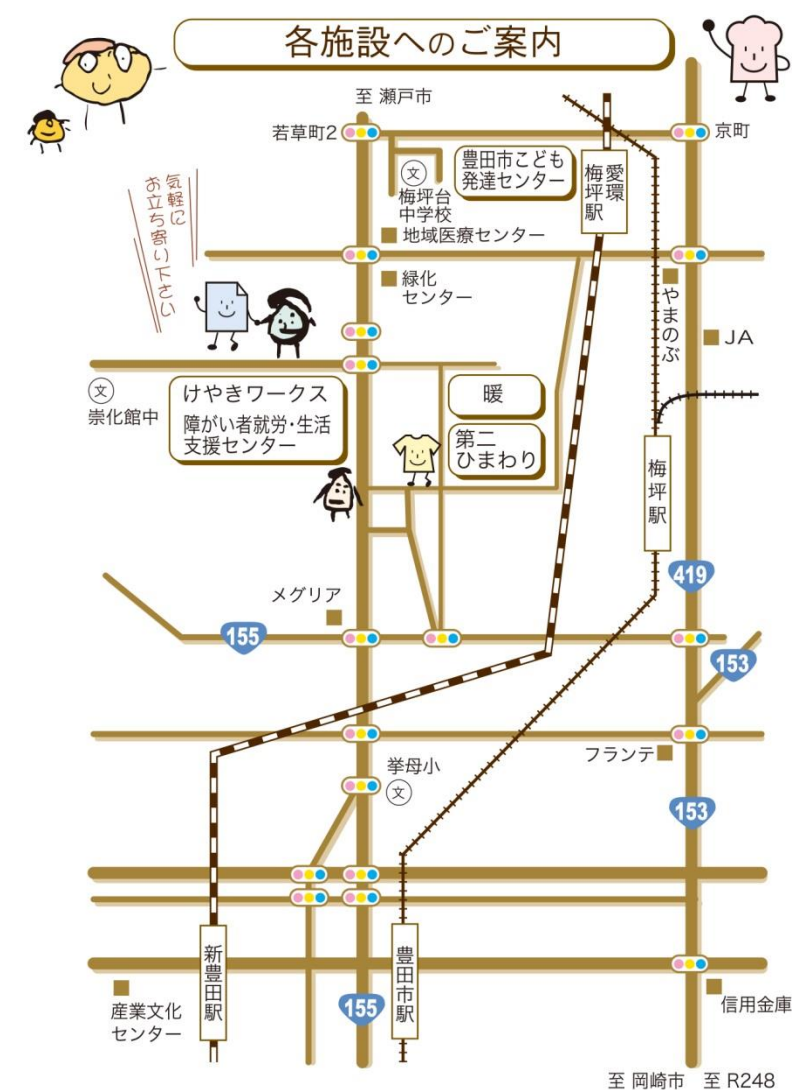


豊田市障がい者総合支援センターは、障がいのある方の自立及び社会参加を支援し、豊かな地域生活の実現を図るため、豊田市が設置した施設の総称です。「障がい者就労・生活支援センター」「けやきワークス」「第二ひまわり」「暖」の4施設で構成しています。

豊田市から指定管理者の指定を受けた豊田市福祉事業団が、障がい者総合支援法に規定する障がい福祉サービス事業と、国及び豊田市から委託された就労生活支援事業などを行っています。

目次

けやきワークス	1
雑貨屋プロジェクトの取り組み	
～「産学福連携」で開発したオリジナル商品～	
暖	3
ガールズバンド	
第二ひまわり	5
第二ひまわりの食事支援	
障がい者就労・生活支援センター	7
障がい者福祉従事者研修	



雑貨屋プロジェクトの取り組み ～「産学福連携」で開発したオリジナル商品～

はじめに

けやきワークスは就労継続支援 B 型の事業を行っている施設です。

就労継続支援 B 型とは、企業等で雇用契約を結んで働くことが難しい方が、軽作業などの仕事をしながら社会参加する福祉サービスです。

けやきワークスの入口が雑貨屋になっていることはご存知でしょうか。これらの雑貨は市内の福祉事業所で作られた作品です。

手に取りやすく、素敵だねと言ってもらえる商品にするために、皆で意見を出し合っています。この取り組みを「雑貨屋プロジェクト」と称しています。取り組むうえで、以下のことを気をつけています。

- ・コンセプトを持って、お客さんに欲しいと思ってもらえる商品を置く
- ・ゼルコバ前のスペースをもっとかわいく雑貨屋風にし、多くの人に見てもらう
- ・職員の意識を高め、利用者さんの作品をもっと知ってもらえる工夫をする
- ・現在ある作品を活かしてより良いものにする
- ・『ウェルフェアトレード』の精神を大切にする



雑貨の店ぜるこばの様子

※ウェルフェアトレードとは・・・

「ウェルフェア」と「フェアトレード」を組み合わせた造語です。フェアトレードとは、発展途上国で作られた商品を適正な価格で購入することで自立を支援しようという仕組みです。ウェルフェアトレードはその福祉版です。この雑貨屋プロジェクトを通して、ウェルフェアトレードを多くの人に発信できたらと思います。

1 産学福連携のきっかけ

雑貨屋プロジェクトは 2016 年 2 月からはじまりました。福祉施設以外の方の意見を取り入れたいと思い、インテリア業等の会社に相談してみました。

協力事業者の皆様より配色や陳列方法等のアドバイスをいただいて、喫茶店の前に、より雑貨屋らしいスペースがうまれました。

また、豊田森林組合の方から名古屋学芸大学をご紹介いただき、この取り組みに協力していただけることになりました。



雑貨屋プロジェクト会議の様子

2 雑貨屋プロジェクトでの商品展開・商品開発

会議を重ねるごとにさまざまな商品の開発や改良を行いました。その一部を紹介します。

例 1 チャレンジドアートの活用

雑貨屋プロジェクト開始から 4 か月が経った頃、「雑貨の店ぜるこば」のキャラクターが決まりました。利用者さんの描いたチャレンジドアートの作品の中から選出した「てんとう虫」です。てんとう虫は上へ上へと向上していく縁起の良い虫です。これからの雑貨屋の繁栄を祈念しロゴマークにしました。

また、協力印刷会社さんとともに、チャレンジドアートや名古屋学芸大学の学生さんのデザインをプリントした、オリジナルのノート「C-BOOK」もできあがり、名古屋学芸大学の購買部にも置いていただけることになりました。

例 2 第二ひまわりの「さをり織り」

名古屋学芸大学にアイデアを出していただき、第二ひまわりの“さをり織り”を活かした商品をより身近に扱えるようにと、トートバッグやコースター、ブローチの作品に加工して販売するようにしました。

例 3 豊田市の木材を利用した作品

森林組合に依頼し、オリジナルのまな板を作りました。大きさや形、使い勝手の良さなど試作を繰り返しながら皆で意見を出し合い、オリジナルロゴマークを入れたまな板が完成しました。



例 1 例 2 の C-BOOK とさをり織り商品



例 3 のロゴマーク入りまな板

3 雑貨屋プロジェクトを行ってみて

- ・施設職員だけでは思いつかなかったデザインや作品の活用方法を、いろいろな業種の方に集まっていただき話し合っ作り上げていく楽しさを感じました。
- ・パンを買いに来た方が、雑貨の店ぜるこばの前で足を止めて作品を見ていただける機会が増え、多くの人に福祉施設の作品だからではなく、一つの作品として楽しんでもらえていると感じています。
- ・今後は、テーマを決めて年 3 回「〇〇フェア」も開催することになりました。作品がマンネリ化しないよう、多くのお客様に楽しんでいただける作品作りをしていきたいと思っています。

『ガールズバンド』

暖には音楽が大好きな女性達が集まった「ガールズバンド」というグループがあります。

ガールズバンドは、平成 18 年に「歌や楽器を演奏して、音楽を皆に楽しんでもらおう」と集まった 6 人のメンバーで結成しました。現在は 7 人で活動しています。

これまでの主な活動は、暖内でのコンサートの他、「新成人の祝い」でのお祝いのアトラクションや、外部施設でのコンサート開催などです。平成 26 年には 24 時間テレビにも出演しました。



暖内でのコンサート

本番までの練習風景

①選曲

メンバー全員で発表のテーマに沿って話し合い、曲を決めます。例えば、新成人の祝いでは、新成人を迎える後輩へ向けたメッセージ性のある曲を選びました。

②楽器選び

曲目が決まったら、メンバーそれぞれが演奏する楽器を決めます。(写真 1) 演奏をサポートする職員と相談しながら、曲調にあった楽器を選んでいきます。

③練習

月 2 回、暖の食堂に集まり、メンバー同士お互いの顔を見られるよう、円形になって練習をしています(写真 2)。円形になることで、お互い褒め合ったり、アドバイスし合ったりしながら取り組むことができます。

楽器は、メンバーが演奏しやすくなるように工夫しています。例えば、A さんはのギターの弦は、A さんの好きなモールを巻いてモールと弦と一緒に触って演奏しています。(写真 3) そのほかにも楽器を置く位置や向き、高さ、合図の出し方など一人ひとりに合わせた工夫をしています。



写真 3：弦にモールを巻いたギター



写真 1：話し合いの様子



写真 2：円形での練習

ガールズバンドコンサート

コンサート本番は、お揃いのピンクの T シャツを着て演奏します。ソロパートのあるメンバーは、本番が近づくにつれてドキドキしている様子です。普段は完璧な演奏ができるメンバーも大勢の観客の前での演奏は緊張しますが、コンサートが始まると練習の成果を出すことができ、堂々と演奏しています。

養護老人ホーム『若草苑』やこども発達センター『たんぽぽ』で演奏させてもらったこともあります。コンサートを開催することで、メンバーは目標をもって練習に励むことができました。



若草苑でのコンサート



たんぽぽでのコンサート

今後のガールズバンドについて

ガールズバンドは、メンバーにとって大好きな音楽を楽しむ機会であると同時に、生きがいにもなっています。

ボーカルに初挑戦した B さんは、大勢の観客の前で歌うことに緊張していました。たくさん練習をして、ときにはうまくできず悔し涙が流れることもありました。しかし、本番でうまく歌うことができ、自信ができました。今では、自分から「歌いたい」と伝えてくれるようになりました。

これからも、メンバーの生きがいになり、観客の方に笑顔届けられるようなガールズバンドを目指していきます。



第二ひまわりの食事支援

第二ひまわりは、知的障がいや自閉症のある方が自宅やグループホームなどから通い、日中活動を行う施設です。利用者の方一人ひとりの障がい特性や、個性を大切に「その人らしく生きる」をモットーに支援しています。それは食事支援も同じです。

利用者の方々が食事を「おいしく楽しく安全に」食べられる支援について報告します。

1 食形態

利用者の方がおいしく安全に食べられるよう、食形態を検討し、給食を提供しています。

第二ひまわりでは、普通食の他に、一口大食、ソフト食、ムース食という4段階の食形態の給食を提供しています。また、利用者の方に合わせ、軟飯やとろみのついた汁物も用意しています。



一口大食



ソフト食



ムース食

2 姿勢保持

利用者の方が、自分で給食をおいしく食べることができるように工夫しています。

食事姿勢を保持することが難しい方には、姿勢保持を補助するクッションを作成し支援しています。(写真1)



写真1

3 食具

握力が弱い方には、持ち手を太くしたスプーン(写真2)、手首のコントロールが難しい方には先を湾曲させたスプーン(写真3)、口が開きにくい方には、さじの小さいスプーン(写真4)を選択しています。



写真2



写真3



写真4

顔を上げなくてもコップを傾けて飲めるよう鼻の部分がカットされたコップ(写真5)や、持ちやすい取っ手付きのお椀(写真6)など、利用者の方の機能に適した食器を選択しています。



写真5



写真6

4 環境設定

第二ひまわりには、大食堂(写真7)と小食堂がありますが、利用者の方の特性に合わせて、2か所の活動室も使っています。周囲の声や人の動きが気になってしまい、集団の間では食事をおいしく快適に食べることが難しい方は、活動室(写真8)で個別対応をしています。



写真7



写真8

大食堂でも写真9のように、パーティションを使い周囲の視覚的情報を軽減することで食事をおいしく食べることができる方もいます。

また、食事の終わりの時間が分からず、困惑してしまう方には、終わる時間を分かりやすく伝えるために、タイマーを利用して食事の終了時間を提示します。



写真9

5 職員配置

各テーブルに1名の職員がつき、1~4名の利用者の方の食事支援を担当しています。その他に、各食堂に1名「見守り職員」を配置しています。

どの職員が担当しても、統一した支援ができるように食事介助マニュアルを作成しています。ただし、利用開始したばかりの利用者の方に対しては、関わりの多い限定した職員が対応し、安心して落ち着いた環境の中で食べられるようにしています。

6 今後の食事支援について

今後、利用者の高齢化により、食形態や食具、姿勢保持など、より一層さまざまな配慮が必要になると思います。これからも、行動面の障がいの重い方に合わせた食事環境の設定を行い、一人ひとりの変化に合わせた食事支援で、利用者の方がおいしく楽しく給食を食べてもらえるように、支援を追求していきます。

障がい者福祉従事者研修

1 研修の目的

障がい者福祉従事者研修は、豊田市内にある就労支援機関や日中活動サービス事業所などの職員を対象に行う研修です。

毎年、障がい者就労・生活支援センター主催で講師を招き、講演会や、グループワークなどの実践的な内容の研修を行っています。

平成29年度は「就労支援の方法」をテーマに、より現場で活かせる内容を選定しました。



障がい者福祉従事者研修の様子

2 研修の概要

日 時 平成29年12月4日（火）14時00分～16時00分
場 所 障がい者就労・生活支援センター
講 師 アソウ・ヒューマニーセンター 二見 武志 氏
テーマ 就労支援の方法（相談・カウンセリング）
受講者数 21名

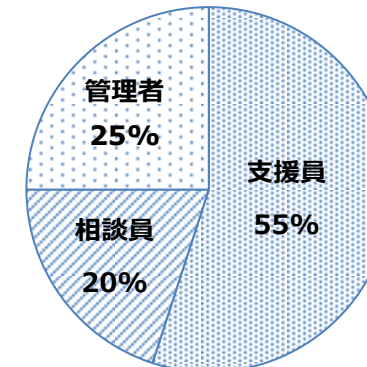
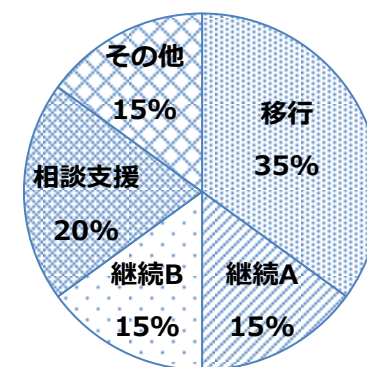
＜過去5年間の研修テーマと講師＞

年度	テーマ	講師
平成25年度	人が人を支えるために必要なこと	社会福祉法人 あさみどりの会 丹下 靖 氏
平成26年度	個人を尊重する相談とは	日本福祉大学 健康科学部 准教授 水谷 なおみ 氏
平成27年度	誰もが暮らしやすい地域づくりのために ～発達障がいのある方のサポートを考える～	豊田市福祉事業団 理事長 高橋 脩 氏
平成28年度	発達障がいのライフデザイン支援 ～疑似体験ワークを通して当事者の側から考える～	愛知教育大学大学院 准教授 三谷 聖也 氏
平成29年度	就労支援の方法（相談・カウンセリング）	アソウ・ヒューマニーセンター 二見 武志 氏

3 参加者の内訳

障がい者福祉従事者研修には、毎年20～40名の方が参加しています。就労系の施設をはじめ、日中支援や障がい児施設の職員など、業種を問わず様々な施設の職員が参加しています。

＜平成29年度の参加者の業種と職種の内訳＞



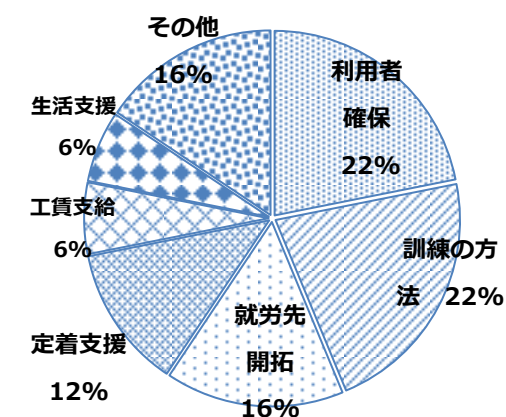
4 参加者の自由意見

- ・ とても良い話が聞けて、自分を省みることができた。
- ・ 就労移行支援事業所をもっと認知されるよう一層努力したい。
- ・ 日頃の相談支援のアプローチとは異なる視点でよい勉強になった。

5 現場の抱える課題について

- ・ 本人の能力について職員と親の見解の違いがある。
- ・ 利用者の作業内容をどうするか。
- ・ 職員間の価値観の違い。
- ・ 契約終了後の利用者の定着支援をどうするか。
- ・ 定着支援にまで手が回らない。
- ・ 訓練先に事務現場がない。
- ・ 利用者の数が少ない。
- ・ 支援と生産のバランスが悪い。
- ・ コミュニケーション能力アップの方法。

＜課題の種類別割合＞



6 まとめ

障がい者福祉従事者研修は、豊田市内にある就労支援機関・支援者が支援のスキルアップや、共通の課題を話し合える貴重な研修です。

今回の研修でも、多くの参加者が現場の悩みを共有することができました。

今後も、支援機関・支援者が連携を図る場として、継続していきたいと考えています。